

明 珍 家

THE MYOCHIN FAMILY

52代続く 鐵の一族



玉鋼火箸

自在置物

明

珍火箸風鈴。火箸が触れ合う時に響きわたる澄んだ音色。余韻のある神秘的な音は、鍛錬された鐵でなければ作り出せない音だという。鐵の火入れ、鍛造技術は一族に伝わる秘伝の技である。

明珍家は平安時代(784-1184)より続く甲冑師の家系であり、12世紀半ばに近衛天皇よりその技を賞賛され「明珍」の姓を賜わった。

時代は大きな変化の時期を迎えた。

明治時代になり武士の時代が終わると甲冑の需要はなくなり、千利休のために火箸を作ったという故事にならい火箸製作で起死回生を図る。

何度も危機に見舞われるが、伝統の技を途絶えさせないため、現当主52代明珍宗理が試行錯誤を重ね、昭和40年ついに「明珍火箸風鈴」が誕生したのである。

明珍火箸風鈴の音質の素晴らしさは国内ばかりか「東洋の神秘」として世界で評価が高まっているが、明珍家は名声に甘んじることなく、常に品質と技術の向上を図るため、たゆまぬ努力を続けている。日本古来の玉鋼を使用した玉鋼火箸、新素材チタンの手打ち鍛造で仏具のお鈴を作るなど、絶えず挑戦を続ける姿は、明珍家に受け継がれている。

サムライの身を守るための甲冑を作る鍛造技術が、今では人の心を癒やす音色を響かせている。「鐵の一族」明珍家の誇りである。



鐵の名匠

明珍 宗理

みょうちん むねみち



刀匠

明珍 宗裕

みょうちん むねひろ



鍛冶師

明珍 敬三

みょうちん けいぞう

52代続く鐵の一族

明珍火箸風鈴の音質の素晴らしさは、
世界の音楽家、企業から高く評価されている。

◎昭和39年(1964年)から現在まで、SONYのマイクの音質検査には
明珍火箸の音色が使用されている。

◎作曲家・シンセサイザー奏者の富田勲氏は、偶然出会った
明珍火箸の音質に魅せられ
「源氏物語幻想交響絵巻」(富田勲作曲)などに明珍火箸を使用。
平成12年(2000年)イギリス公演にて
ロンドンフィルハーモニーオーケストラ演奏。

◎富田氏の紹介で明珍火箸の音を聴いたスティービー・ワンダー氏は
「耳のすぐ近くから聞こえるかと思えば、
はるか何万光年先から聞こえてくるかのような
東洋の神秘」と絶賛した。

◎平成14年(2002年)
2002FIFAワールドカップの決勝戦前夜祭で玉鋼火箸使用。

◎平成20年(2008年)
パリコレ「イッセイ・ミヤケ」のショーで火箸風鈴が使用される。

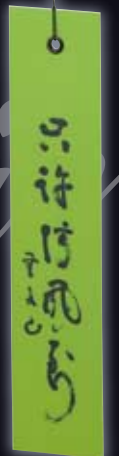
◎平成23年(2011年)
セイコーウォッチ「ミニッツ リピーター」の音源ゴングを共同開発。



チタンおりん



風鈴



Myochohin